

## Contents

- 東北地方太平洋沖地震に関する研究のアウトリーチ活動 … 1
- International Workshop on “Earthquake, Tsunami Hazards and Early Warning Systems in the Asian-Pacific Region” 参加報告 … 3
- 外部委員会活動報告 2011年8月 … 4



## 東北地方太平洋沖地震に関する研究のアウトリーチ活動

桑原保人

今回3月11日の東北地方太平洋沖地震を機に、地震に対する一般の方々の関心は非常に高まっています。私たちは、地震に関する知識や私たちの研究成果を正しく理解していただきながら、また一般の方々との対話から私たち自身も学ぶことを目的に、今回の地震に関する研究の広報活動も積極的に行うことにしています。特に今回の地震では、地震の想定を考える上で、できるだけ古い過去の地震の研究の重要性が再認識されました。このようなことから、いくつかの大規模な展示会の機会を利用し、今回の地震と非常に良く似た貞観地震の研究や津波堆積物、内陸の活断層の研究を中心とした展示を行い、当センター職員で分担して説明にあたりました。ここでは、7月23日および9月10日・11日に一般の方を対象にした展示を行いましたので報告いたします。また、来たる10月13日(木)・14日(金)は産総研オープンラボ (<http://www.aist-openlab.jp/>) が開催されます。こちらはやや専門的な内容となりますが、やはり今回の地震関連の研究を中心とした展示も行います。ご来場をお待ちしております。

### [7月産総研一般公開]

7月23日(土)は産総研の一般公開の一環として、岡村センター長による特別講演「東北地方太平洋沖地震は貞観地震の再来か?」、宍倉チーム長によるサイエンストーク「巨大地震と津波—過去を知って将来に備えよう—」が行われました。また「東北地方太平洋沖地震—日本列島の地

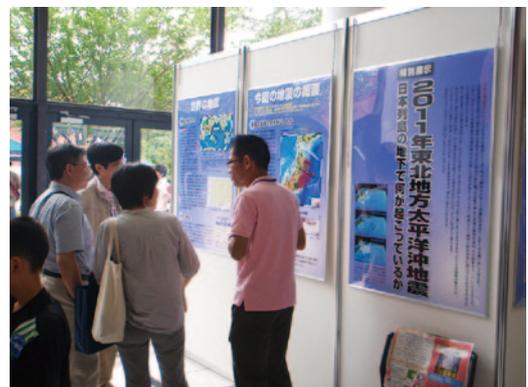


写真1 産総研一般公開での展示の様子。

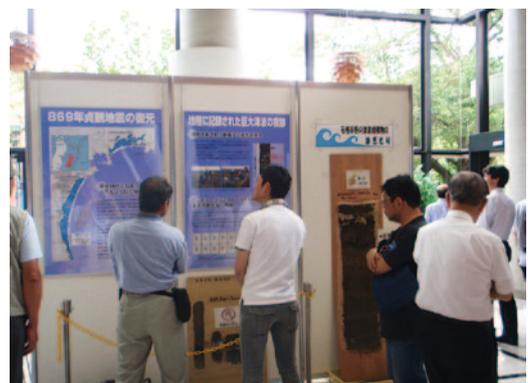


写真2 産総研一般公開での津波堆積物のほぎ取り等の展示。



下で何が起きているか」の特別展示コーナーでは、ポスターの他、津波堆積物のはぎ取りやジオスライサーの実物、貞観津波のアニメーション等の展示を行いました。当日は、産総研全体で5,495名の来場者があり、地震関連の講演や展示にも多くの方の来て頂きました。津波堆積物のはぎ取りの展示などは興味深そうにご覧頂けたと思います。

### [9月地質情報展 2011 みと]

9月10日(土)、11日(日)は、「地質情報展 2011 みと」でした。地質情報展は毎年地質学会学術大会に合わせて行われる、地質関連の学術成果の一般向け展示会です。今年は産総研・地質学会・茨城大学の共催で水戸市武道館で開催され、入場者数は2日間で926名とのことでした。産総研以外の各機関からも今回の地震に関するたくさんの展示がありました。また、地質学会主催の市民講座では、澤井研究員による「地層が語る過去の巨大地震と津波」というタイトルの講演も行われました。貞観地震の名前は知っていたが、どのように研究していたか知らなかった方なども多くおられ、興味を持っていただけだと思います。

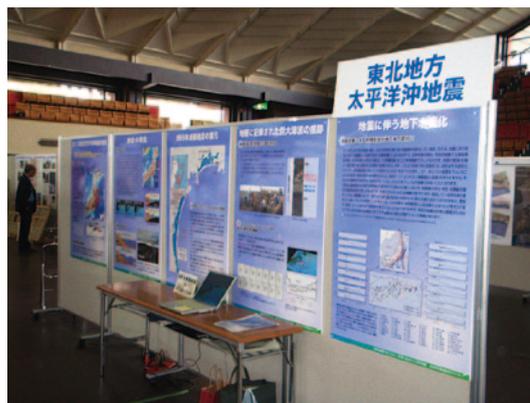


写真3 地質情報展での東北地方太平洋沖地震関連研究の展示風景。

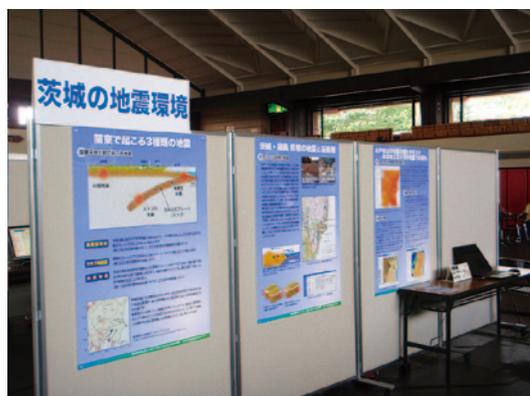


写真4 地質情報展での茨城の地震環境関連の研究の展示風景。



## International Workshop on “Earthquake, Tsunami Hazards and Early Warning Systems in the Asian-Pacific Region” 参加報告

中央正展（海溝型地震履歴研究チーム）

2011年9月5～6日（ベトナム・ハノイ）

ベトナム科学技術アカデミー主催による標記ワークショップが、ハノイにおいて開催された。同アカデミーからの招待で、産総研（GSJ）から筆者が参加することになった。ワークショップのテーマは大きいですが、実際のところ規模は小さく、比較的こじんまりしたワークショップであった。Internationalと銘打っておきながら、参加者のほとんどはベトナム人で、海外からは、イタリアから2名、台湾から2名、ニュージーランドから1名、ロシアから1名、インドネシアから1名、そして日本からは筆者1名のみであった。しかも使用言語はベトナム語が基本で、海外からの参加者の発表は当然英語なのだが、それをベトナム語で通訳するという状況であった。筆者のプレゼン時間は20分を予定されていたので、そのように準備したのだが、スライド1枚変えるたびに通訳が入るため、結局30分くらいかかってしまった。それにしても通訳をかってでたDr. Nguyen Hong Phuongの見事な通訳っぷりには感心させられた。初めて聞く研究内容を瞬時に理解し、しかも筆者のつたない英語でもちゃんと訳してくれたのである。もっとも実際にベトナム語にどう訳されたのかは知る由もないが。

さて、ワークショップ自体の内容であるが、やはり3月11日の東北地方太平洋沖地震の影響か、津波に関する発表が多く、ベトナム沿岸に影響を与えそうないくつかの波源を想定して浸水シミュレーションを行った研究例などもあった。中にはベトナム沿岸での津波堆積物に関する発表もあったが、いったいどれが津波堆積物なのか、スライドを見ても分からないし、話を聞いてもベトナム語ではまったく理解不能という悲惨な状況であった。

筆者は津波堆積物からみた貞観地震と東北地方太平洋沖地震について話したのだが、多くの聴衆の関心を引いたようで、地元テレビ局の取材も受ける

ことになった（これもDr. Nguyen Hong Phuongによる通訳入り）。

ワークショップは1日間のみで、翌日はベトナム地球物理学研究所でセミナーとビジネスミーティングを行った。どうやら前日のベトナム人による津波堆積物の発表は、同じベトナム人の中でもおかしいと思われていたらしく、「本当の津波堆積物をレクチャーしてくれ」と頼まれ、筆者が即席の講義をするはめになった。

ベトナムの津波堆積物の研究はまだまだこれからという状況であるが、研究所内の施設を見ると、各種観測のネットワークも整備されているようであり、意外と言っては失礼だが、進んだ印象であった。ベトナムは初めての訪問であったが、街に非常に活気があり、人々も親切で、かなり気に入ってしまった。経済成長も著しく、今後は地震研究の分野でもさらなる進展が期待されよう。今回知り合ったベトナムの研究者の何人かは、来年GSJが行うワークショップ（G-EVER1）にも来られるようなので、再会を楽しみにしたい。



ワークショップ会場の様子。看板も含め、基本、全部ベトナム語。ホー・チ・ミンの胸像も見える。

外部委員会等 活動報告 (2011 年 8 月)

2011 年 8 月 3 日

原子力安全委員会 原子力安全基準・指針専門部会  
地震・津波関連指針等検討小委員会 (岡村出席 /  
東京)  
耐震設計審査指針及び関連の指針類に反映させる  
べき事項について 他

2011 年 8 月 5 日

地震調査委員会 (岡村出席 / 文科省)  
平成 23 年 7 月の地震活動について 他

2011 年 8 月 19 日

地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部  
会第 8 回活断層分科会 (吉岡出席 / 東京)

2011 年 8 月 24 日

地震調査研究推進本部地震調査委員会第 171 回長  
期評価部会 (吉岡出席 / 東京)

2011 年 8 月 25 日

原子力安全委員会 原子力安全基準・指針専門部会  
地震・津波関連指針等検討小委員会 (岡村出席 /  
東京)  
耐震設計審査指針及び関連の指針類に反映させる  
べき事項について 他

2011 年 8 月 28 日

第 1 回南海トラフの巨大地震モデル検討会 (岡村  
出席 / 内閣府)  
今後の検討方針について

2011 年 8 月 31 日

地震防災対策強化地域判定会 (小泉出席 / 気象庁)  
東海地方周辺の最近の 1 ヶ月のデータを持ち寄っ  
て検討し、東海地震発生可能性について協議した。